



# 学校図書館だより

## 5月号

令和元年5月  
柏市立土中学校  
柏市学校図書館指導員  
岡部 容子

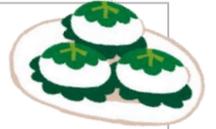
木々の緑が目にも美しい季節になりました。入学・進級から1ヵ月がたち、新しい生活にも慣れてきたころでしょうか。元号が「平成」から「令和」へと変わりました。新しい時代に向けて、たくさん本を読んで、視野を広げてみませんか。学校図書館は、様々な分野の本を用意して皆さんの来館を待っています。

### ちょっと、こんなことを調べてみませんか？

かしわ餅は端午節句のお饅頭です。「なぜ、カシワの葉なの？」

「カシワの木は他の木と違って冬になっても葉が落ちない！」

この「カシワの葉」は特別な葉であり、新芽が出てから古い葉が落ちるといった特徴があります。この特徴から、「家系が絶えない」「子孫繁栄」という考えに結びつき、縁起をかついで広まったといわれています。しかし私の住んでいる和歌山では端午の節句には「サルトリイバラ」の葉を使い「おさすり」と言います。ほかの地方ではどんな呼び名があるのでしょうか？興味のある人は裏面をみてください。



図書館ではこのような疑問を調べていくことを  
「調べ学習」と言います。

夏にはコンクールもありますので、チャレンジしてくださいね。



**今月のおすすめテーマは「鳥」** 5月10日～16日は愛鳥週間です。

#### 『とんび』

重松 清 〈913/シゲ〉

家族三人の幸せな生活は、突然の悲劇によって奪われてしまう。我が子の幸せだけをひたむきに願い続けた不器用な父親の姿を通して、いつの世も変わることのない不滅の情を描く。魂ふるえる、父と息子の物語。

#### 『スズメの謎』

三上 修 誠文堂新光社 〈488/ミカ〉

スズメも少子化？日本人の暮らしと、スズメの減少について科学的に検証するサイエンスノンフィクション。スズメの数え方やデータの見方などを通して、誰も知らない答えを見つける方法を学べる1冊。



#### 『よだかの星』

宮沢 賢治 偕成社 〈913/ミヤ〉

みにくい鳥、よだか。その姿かたち故に、ほかの鳥からうとまれ、さげすまれ、その名の故に、本物のタカからも嫌われ、おどされてしまう。そしてその自分が、平気で羽虫を食べて生きる宿命にあると気づいた時、よだかは、この辛い世界を捨てようとして決意して……。美しい組み木絵で描かれる切ない物語。

### 2019年本屋大賞決定！

『そして、バトンは渡された』

瀬尾 まいこ 文藝春秋 〈913/セオ〉

血の繋がらない親の間をリレーされ、4回も名字が変わった森宮優子、17歳。父親が3人、母親が2人。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。身近な人が愛おしくなる、優しい物語。

『ライブラリーサーチ』の紹介文を一部引用しています。